

## トマト産地のリニューアルに向けた低コスト生産システムの開発

### 1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構野菜茶業研究所 高市 益行

### 2 研究期間

2004～2006 年度（3 年間）

### 3 研究目的

東海地方のトマト産地の多くは、施設の形式が古く分散化しており、施設や栽培技術、経営形態などの総合的なリニューアルが緊急の課題となっている。このため、初期設置コストが従来の 1/2 となる新構造の大型ハウスを開発し、低コストな周年高品質安定生産技術を体系化して、産地リニューアルのための大規模経営手法を提示する。

### 4 研究内容及び実施体制

#### ① 東海地方に適した超低コストハウスの開発（大阪府立大学、グリンテック（株）、MKV プラテック（株）、（独）農業工学研究所）

軽量薄板形鋼と地上組立法により、ハウス本体建設コストが従来の 1/2 で、効率の高い換気構造を持つ新構造の大型ハウスを開発する。このために、新構造材によるハウス本体の設計と製造・組立法の検討、超低コストハウスの耐風構造の開発と耐雪性の評価、超低コストハウス建設のシステム構築と建築の実証、新部材に適した被覆材の固定方法の検討と耐久性の評価、超低コストハウスの換気構造の最適化と環境特性の解明を行う。

#### ② 超低コストハウスを利用したトマト周年生産技術の体系化と導入指針の策定（（独）野菜茶業研究所、愛知県農業総合試験場）

新構造ハウスを活かした低コスト環境制御技術を開発して、東海地方におけるトマトの大規模経営手法および老朽化産地の合理的なリニューアル手法を提示する。このために、環境特性と作物生理に基づく合理的環境制御技術の開発、低コスト周年高品質生産技術の体系化、超低コストハウスを利用した栽培体系の導入の経営評価および産地リニューアルモデルの策定を行う。

### 5 目標とする成果

初期設置コストが従来の約 1/2 となる新構造の大型ハウスが開発され、トマト生産における低コスト環境制御手法、周年安定生産技術体系および大規模経営手法が構築される。これにより、東海地方の老朽化トマト産地におけるハード面（栽培ハウス）とソフト面（栽培技術体系）の両面について、合理的なリニューアル手法が

提示される。これらによって、トマト産地の担い手の確保が可能となり、輸入トマトに対する競争力の強化が期待される。